

<全体分析>

試験時間 2科目で150分

<p>解答形式 客観式9個(選択式8個, 記述式1個), 論述式18題(1行×4, 2行×9, 3行×4, 4行×1, 計38行)</p> <p>分量・難易(前年比較) 分量(減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 難易(易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)</p> <p>客観式の解答数は6個減少して9個となったが, 論述問題の数は昨年度の14題から4題増加し, 行数も7行増加したため, 分量は増加した。内容的には, 書きにくい論述問題も含まれるが, 頻出のテーマが多く, 全体の難易度は昨年度と大きな変化はない。</p> <p>出題の特徴 さまざまな地図と地理情報を扱った主題図が近年多用される傾向にあるが, 本年度は第1問設問Aで日本列島の地形断面図を用いた問題が出題された。日本の農業の地域性, 東南アジアの農業, 先進国の産業構造の変化, 三大都市圏と東京圏など, これまでの東大本試で問われた内容が切り口を変えて出題されている設問もあり, 過去問の学習が必要である。</p> <p>その他ピックス 第1問設問A(5)の高度の拡張率を求める問題は, 日本に関する知識を用いて計算させるもので, 昨年度に引き続き計算問題が出題された。第2問で4行の論述問題が出題されたが, 2011年度以来である。</p>
---

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
第1問	選択 記述式 論述	日本列島の地形と 自然資源利用	設問Aは, 日本の地体構造を念頭に, 地形や農業の地域性を問う問題で, 日本の自然環境についての知識の有無で差がついたと思われる。(5)の計算を要する問題は難しい。設問B(2)の「やりとりしている」資源は, 瀬戸内の香川県と太平洋岸の高知県の降水量の違いから, 水だと気づけるかがポイントである。	標準
第2問	選択 論述	世界の食料の 生産と消費	設問A(2)は, 1~6の国々の動物性食品の割合がもともと高いことにも触れておきたい。(3)は, ペルーが自然環境と民族構成の両面から, ブラジル・アルゼンチンと異なることをまとめよう。設問B(1)の判定問題は容易で, 確実に得点したい。(2)のマレーシアは, 米の生産についてはなじみがないかもしれないが, 他国と比べて増加率が低いことに気づくと, 輸入に依存するという背景が見えてくる。	標準
第3問	選択 論述	ドイツと日本の 人口の動向	設問A(1)は, 基本的な知識であり, 確実に判定したい。(2)は, 旧西ドイツ地域と旧東ドイツ地域の経済格差を当てはめよう。(3)は, 先進国の産業構造の変化がイメージできるとよい。設問B(3)は, 東京圏の人口転入先が周辺の埼玉・千葉・神奈川から中心の特別区部へと変化したことを読みとり, 背景とともにまとめよう。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

<ol style="list-style-type: none"> <li>客観式問題での得点が合否にかかわるため, 教科書やセンター試験の過去問などで基本的知識を習得しておきたい。</li> <li>指定語句を使ったり, 資料から判読できることをもとにコンパクトにまとめることが求められているので, 60字程度の短い論述演習を繰り返し, 限られた時間で論述する力を身につけておきたい。</li> <li>統計を解釈する問題が頻出しており, 統計のもつ意味をきちんと理解した学習が求められる。</li> <li>日本の変化に関する問題が頻出しており, 「高度経済成長期」, 「石油危機」, 「円高」, 「バブル崩壊」, 「都心回帰現象」など時代を理解するキーワードをもとにそれぞれの年代の特徴を理解しておきたい。</li> <li>日本に関しては, 具体的な地域についての知識よりは, 大都市圏と地方圏, 大都市圏内の都心と郊外, 地方圏における中心都市など, 機能からみた地域の特徴を把握しておきたい。</li> <li>2年連続で計算問題が出題されている。地理的技能の一環として, さまざまな計算問題を練習しておくことが望ましい。</li> <li>地形については, 標高分布図や地形区分図などの図が出題されることも予想される。典型的な地形の地形図の読図をもとに, 具体的な地形がイメージできるようにしておきたい。</li> </ol>
---